

校内研修計画

甲州市立大和中学校

1 学校課題

「生きる力」の育成に関する本校教育課題は次の4点である。まず、平素の学習活動や各種調査結果から家庭学習の習慣が確立されていない状況にあるといえる。多くの生徒が塾に通ってはいるが、家庭での主体的な学習はなされていない。継続的な学習習慣の確立、主体的な学習態度の育成が、基礎的・基本的な内容や技能の定着につながり、さらに思考力・判断力・表現力など課題解決的な資質・能力の育成に役立つと考える。二つ目は、幼少時から少人数集団の中で、互いに思いやり、助け合って学校や地域での生活を送るなど、思いやりの心をもった生徒が多い。しかし、互いのことをよく知っているがため、きちんと話す必要性が低く、自分の考えを表現する力が弱い。今後も道德教育や特別活動の充実により、自主的・自律的で、豊かな心をもった生徒の育成を図るとともに、表現力をつけるような指導もしていく必要がある。三つ目は、本校の生徒は体力の向上や心身の健康の保持増進に関する関心が高い。体育や健康安全に関する指導並びに部活動の充実により、たくましい心や身体をもち、生き生きと生活できる生徒の育成に努めたい。四つ目は、教職員と生徒の信頼関係をさらに強めるとともに、開かれた学校の実現を目指し、保護者や地域社会と協力して生徒の望ましい成長を支えていくようにさらに努力したい。

2 研究主題・研究副主題

研究主題

『生きる力の育成』

研究副主題

～「伝え合う力」を高める指導を通して～

3 主題設定の理由

今年度から新学習指導要領が完全実施になり、「知識基盤社会」の時代において「生きる力」の育成がますます重要になる。そのために「基礎的な知識・技能をしっかりと身につけること」「知識・技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育むこと」「学習に取り組む意欲を養うこと」が方針として示されている。

このことを踏まえて、本校の学校課題を振り返ったとき、「生きる力」、特に「確かな学力」の定着に関して、各教科における知識や技能の修得について重視した上で、それらの知識や技能を生徒一人一人が自らの学びに即して活用を図る学習活動が展開される必要があると考え、平成20年度より学習活動を通して生徒に「確かな学力」をはぐくむ指導の在り方について共通理解を図るとともに、授業実践を行ってきた。

今年度は学校課題の一つである「自分の考えを表現する力が弱い」に視点を当て、それに関連する「伝え合う力」について研究と授業実践を行い、「生きる力」を育成していきたい。

4 研究の具体的内容と方法

(1) 授業実践について

全教科に共通する「伝え合う力」または各教科の特性に応じた「伝え合う力」について指導主事や講師を招聘して理論研究を行う。

一人一実践と全教職員参加の研究授業を行う。一人一実践や研究授業は、「伝え合う力」の視点で授業を行い、その効果について検証する。

(2) 「学習のてびき」について

昨年度の「学習のてびき」を再検討して作成し、生徒、保護者に配布し説明する。また、学習指導に活用する。

(3) 教科の評価規準・評価基準について

大和中の教科の評価規準・評価基準を再確認すると共に、評価についての生徒保護者向け資料を生徒、保護者に開示する。

年間校内研究計画

研究主任 奥山寿夫

研究テーマ	教科	単元・領域 等	授業者	学年	授業の時期	T・C要請
『生きる力の育成』 『伝え合う力』を高める指導を通して	国語	課題解決について話し合おう	鮎澤智美	3年	10月	
	社会	第3章 世界の諸地域 アジア州	澤登正仁	1年	9月	
	数学	比例と反比例の利用	筒井 弘	1年	10月	
	理科	電流とその利用	奥山寿夫	2年	11月	
	保健体育	器械運動 マット	小川寿子	2年	10月	
	英語	修学旅行レポートを发表しよう	古屋友香	3年	7月	

年間校内研究計画

研究主任 奥山寿夫

研究テーマ	教科	単元・領域 等	授業者	学年	授業の時期	T・C要請
「生きる力の育成」 「伝え合う力」を高める指導を通して	国語		鮎澤智美	年	月	
	社会		澤登正仁	年	月	
	数学		筒井 弘	年	月	
	理科		奥山寿夫	年	月	
	保健 体育		小川寿子	年	月	
	英語		古屋友香	年	月	